

## 横手の送り盆まつり

横手の送り盆まつりは、300年以上前から8月15日と16日に死者を追悼するために行われてきた。初日は町内の人々が集まり、伝統的な盆踊りが行われる。その翌日には、死者の霊を弔うために横手川に大きな藁葺き屋根の屋形船を流す「屋形船繰り出し」が行われる。

横手の送り盆まつりは、江戸時代（1603～1867）に起きた三大飢饉で失われた命を供養するために始まった。柳町の住人たちは、死者を追悼するために大きな藁舟を用意して横手川を下った。これが他の地域にも広まり、現在に至っている。祭りの2日目には、横手川のほとりに船を並べ、死者の霊を送る。

祭りで使われる屋形船は、横手の各地区の住民や商店がそれぞれ準備する。毎年再利用される船の骨組みに、藁でできた船体や金具を付けていく作業には、1ヶ月もの時間が費やされる。完成した船は、盆踊りの時期に展示され、その後、川に引き込まれて精霊送りの儀式が行われる。その後、舟は蛇の崎橋に戻り、観客の歓声と花火が上がる中、2隻のぶつけ合いが繰り広げられる。